

富田地区むらづくり運動推進協議会

1 基本データ

- 地区名 富田地区
- 地区人口 3, 380人
- 面積 21.7k㎡



○地区の沿革

富田地区は、東は九頭竜川、西は真名川の二大河川に挟まれ、日本百名山に数えられる荒島岳のふもとから、東西約4km南北約7kmに細長く広がる純農村地帯。

○実施主体

富田地区むらづくり運動推進協議会

2 現状と課題

富田地区むらづくり運動推進協議会では、市民憲章を基調とし、富田地区の将来にわたって明るく豊かな地域の実現を図るため、地区住民が、自らの手による活気ある地域づくりの推進に努めている。

しかしながら、各集落においては、区長を中心として様々な地域づくりに関する活動が行われていることに対し、富田地区全体となると、「花いっぱい運動」等の環

境美化作業や「とみた夏まつり」以外には特筆すべき地域づくりの活動も見られず、協議会もそれらの運営に終始し、イベント終了後には活動が低調になっている。

この状況から脱却し、地域が一体となって取り組む、新たな地域づくりの方策を模索しているところである。



3 事業の内容

本事業では、富田地区農地環境保全協議会が富田公民館の東側に設置したビオトープを核として、富田跨線橋下の空間を一部利用し、隣接するJR越前富田駅の周辺をも含めて、富田地区住民が集う「安らぎと憩いの場」としての一体的整備を行うこととして3箇年の計画を立てた。



事業の開始となった平成22年度には、むらづくり推進委員や区長会を中心とした地区住民の協働作業により、『ホテルが



たくさん飛び交う空間になってほしい』との富田小学校児童の願いが込められ、「ホテルの里ほのぼのひろば」と命名されたビオトープを見下ろす高台に休憩所となる

あずまや
四阿を設置した。



平成23年度には、当初、ビオトープ観察棟の設置とJR越前富田駅の駅舎周辺に花壇を整備する計画であった。

しかし、花壇の整備予定地はJRが所有する土地であるため、整備後の維持管理費の問題や富田地区環境保全協議会で類似の取り組みが予定されているなどしたため、協議会役員に区長会を加えての協議の結果、ビオトープは富田小学校の環境教育や生活科、理科の学習の場として有効な活用がされていることから観察棟の設置までを行い、その他の整備は、平成24年度

計画を含め終了とし、一応の区切りをつけることとなった。そして新たに、希望する集落を募り、それぞれが抱える問題を住民の協働作業により解決する事業に対して支援を行うこととした。

その結果、ビオトープ観察棟の設置のほか、コミュニティ活動促進用機材購入事業として上野区と塚原区、コミュニティ施設維持管理事業として下麻生嶋区と塚原区、環境美化施設設置事業として森目区の計4集落の事業に取り組むこととなった。

4 事業の成果

①「ホテルの里ほのぼの広場」

観察棟整備事業

10月15日(土)午前8時30分より、桑山広行むらづくり運動推進協議会会長のあいさつの後、観察棟の建て方作業に着手した

当日は、早朝から冷たい雨が降り、肌寒い日となったが、協議会の中核を成す集落推進委員や支援と協力をお願いした区長も参加しての作業となった。



作業には、専門的な知識と技術を必要とすることから、事前に建築部材の刻みと丁張、基礎工事を業者に発注し、また、安全

面から、指導と協力を受けることとなったが、昼食の頃にはあらかじめの作業を終え、若杉会などの協力により準備された豚汁で冷えた体を温めることができた。

昨年に休憩所、今年は観察棟を整備したビオトープは、富田地区農地環境保全協議会が、農村環境の向上と元気で明るい地域づくりを目指して取り組んだ、農地や水環境の保全活動の主要事業として、地区住民の手づくりにより造成された。こうした活動が評価をされ、北陸農政局や県知事からは、優良地区として表彰をされたところである。



また、富田小学校の児童が、環境学習を通してビオトープの計画を作成し、校章を基にしたデザインの造成図を提案するなど、計画の段階から作業に加わり、完成後には、学校近くの河川や湿地で行われた生き物調査で採捕した水生生物の放流や植物の移植を行った。同校のビオトープを核とした環境学習や校区内のクリーン作戦など、環境に関する様々な活動は、

食品容器環境美化協会より、環境美化教育



さらに、ビオトープに隣接する畑では、富田小学校児童が「学校給食畑」として季節の野菜を育てたが、この活動には富田高砂クラブが指導にあたり、地区住民の世代を超えた交流が図られると同時に、賑わいが創出されたところでもある。



地区住民の力を結集して造られたビオトープが、地区共有の学習の場、交流の場となり、今後の地域づくりの拠点となることが期待される。

②コミュニティ活動促進用機材購入事業

【上野区】

- ・会場装飾用ボンボリ 50個

- ・ガーデンテーブルセット 10セット
(テーブル10台/イス40脚)

上野区では、春には「さくらまつり」、夏には「納涼会」、秋には「鎮守祭」、そして冬には「そばまつり」と、一年を通して区民が集い、交流するイベントが活発に行われている。この活動をさらに促進するとともに、特に高齢の参加者が不自由なく楽しめる環境づくりを目的として機材の充実を図った。



【塚原区】

- ・ワイヤレスマイクシステム 1式

塚原区では、田休みや祭礼などを機会に区民の交流事業を展開するとともに、防災意識の啓発を目的に防災訓練を実施しているところであり、それらの際に情報伝達手段として



③コミュニティー施設維持管理事業

【下麻生嶋区】

- ・集落センター敷地舗装

下麻生嶋区では、地域づくりの拠点として地区の集会はもとより、敬老会、青・壮年会、婦人会、子ども会などの団体行事に集落センターが活用されている。加えて、近年は区民の葬儀や近隣区民との交流事業にも利用されるなどし、その目的が多様化してきたことから平成16年に増改築を施したところであるが、更なる利便性の向上を目指し、雨天時の利用や除雪に障害となる土盛り部分を区民の協働作業によりアスファルト舗装を施した。

【作業前】



【完成】



【塚原区】

- ・グランド施設安全柵修繕

塚原区では、共有地をグランドとして整備し、田休み行事や防災訓練を実施するほか、子どもたちの遊びの場となるなどし、地区民が集い交流する場として活用しているところである。このグランドと用水路が面する箇所には、安全施設として金網フェンスが取り付

けられているが、設置後数十年が経過し、網目の破れや雪害による支柱の傾き、それらを起因とした欠損箇所が発生しており、景観を損ねるとともに万が一の際に十分な機能が発揮されないことが危惧されていることから、区民参加による修繕工事を行った。



〔作業前〕



〔完成〕



④環境美化施設設置事業

【森目区】

- ・ゴミステーションの改修

森目区のゴミステーションは、設置後永年経過し、雨漏りが激しく床が常に浸水した状態にあり、衛生的に不良な状態にあるとともに、道路から40m程の奥まった場所に位置しており、積雪時には、特に不便な状況の下にある。放置すれば、区民の環境美化意識の低下が危惧されることから、設置場所を幹線道路沿いに移し、区民参加よりゴミステーシ

ョンの新築工事を行った。

〔作業前〕



〔完成〕



5 今後の展望

富田地区農地環境保全協議会が造成したビオトープに、むらづくり運動推進協議会集落委員を中心とした地区住民の協働作業により休憩所と観察棟が整備され、富田地区住民が集う「安らぎと憩いの場」が完成した。

既に、環境学習の場として、また、自然体験活動の場として富田小学校児童の積極的な利用がなされ、子どもたちの弾んだ声が聞こえ、楽しそうな笑顔が見られる、活気に満ちた場所となってきた。

先に開催された集落推進委員会における来年度の事業計画では、ビオトープの存在を地

区住民に周知するとともに、地域づくりの拠点として更なる活用がされることを目的に、ビオトープ帯の風景を題材としたフォトコンテストが提案された。

平成24年度の交付金事業では、集落が抱える問題を住民自らが協働の力で解決する場合に支援をすることとしているが、今年度に先行して実施した集落を参考にしながら、未実施の集落では、自分たちも遅れてはならないというような機運が高まり、自らの集落の課題解決へ向けた動きが活発化してきた。

こうして、一歩ずつではあるが、地区住民が参加し、自らの力でふるさとに活気を再生しようとする動きが見られるようになり、地域の活性化に繋がることを期待される場所である。

